

大東町総合スポーツクラブ

少々肌寒くなってきた11月の放課後、大東町総合スポーツクラブの指導者とクラブがコーディネートした地域指導者が雲南市立海潮小学校児童を対象に、バドミントンを中心とした運動を指導しました。

県内中山間地では、学校区が広域化しスクールバスを利用したり、少子化で友達の家まで遠かったりする現状があり、体を動かす機会の減少が懸念されています。また、放課後、テレビやゲームに熱中する子どもたちについても心配されています。こういった課題を少しでも解決できるよう、今回、大東町総合スポーツクラブと地域の指導者の方が協力して取組が進められました。

最初に準備運動です。音楽にあわせ、いろいろな動きを体験します。15分くらい動きました。しっかり体を動かすと相当ハードな運動でしたが、子どもたちは疲れるそぶりもなく、指導者の動きに合わせて体を動かしました。



(左上)クラブ関係者から講師紹介
(左下・右上)準備運動で様々な動きを体験
(右下)1年生が体育の授業の成果を披露してくれました

続いて、1～3年生、4～6年生に分かれました。1～3年生は基本的な動きを中心に、4～6年生は試合形式でバドミントンを楽しみました。1～3年生もすでに相当のバドミントン経験があるようで、打ち合いを楽しんでいました。

この日は、県政広報番組「しまね情報CUBE」の取材があり山陰中央テレビ（TSK）の若林理紗アナウンサーが児童と一緒にバドミントンを体験されました。一緒にプレーした低学年の子どもたちは特に大喜びでした。

子どもたちはテレビカメラを気にすることもなく、バドミントンに熱中していました。また、終了後、高学年を中心に後片付けやモップがけに進んで取り組んでいる姿が印象的でした。



手前が1～3年生、奥が4～6年生



地域の方の熱心な指導



1～3年生のチーム分け